

全国珠算競技大会がはじめて開かれた

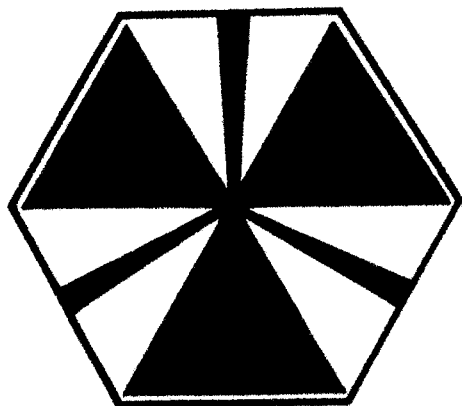
各地では、地方的な競技会が昭和の初め頃から、盛んに行われていましたが、昭和11年（1936）に商工会議所が、はじめて全国珠算競技大会を東京で開催し、全国から360名の選手が参加しました。これは現在国民珠算競技大会に引き継がれています。

計算機と競争してそろばんが勝った

昭和21年（1946）、東京のアーニーパイル劇場（今の東京宝塚劇場）で、『アメリカ星条旗』紙主催のそろばんと計算機の試合が行われました。そろばんの松崎喜義選手は、計算機のトーマス・N・ウッド選手に乗算を除いた加減算、除算、加減乗除混合算に勝ち、敗戦でアメリカ軍の占領下にあった当時の日本国民を喜ばせ、大きな話題となりました。

社団法人 全国珠算教育連盟ができる

昭和28年（1953）秋、珠算の事業や研究を自主的に行おうと、全国の珠算の先生によって全国珠算教育連盟が結成されました。そして昭和31年（1956）に、文部省から社団法人の許可がありました。



（全珠連の標章）

三つの珠は

1. 珠算教育者
2. 珠算被教育者
3. 珠算の隣接科学

をそれぞれ表し

黒いバックは

三つのものを育くむ社会を表すものです。計算実務を必要とする社会と、その要求を満たすために活動する三者との渾然一体とした姿を表したものです。

全珠連創立 昭和28年9月24日

法人許可 昭和31年11月15日